

1 るんるん るんぶ
 2 るんぶ るん
 3 つんつん つるんぶ
 4 つるんぶ つるん

5 河童の皿を月すべり。
 6 じゃぶじゃぶ水をじゃぶつかせ。
 7 かほだけ出して。
 8 おどつてる。

9 るんるん るんぶ
 るんぶ るん
 つんつん つるんぶ
 つるんぶ つるん

大河童沼のぐるりの山は。
 ぐるりの山は息をのみ。
 あしだの手だのふりまわし。
 月もじゃぶじゃぶ沸いてゐる。

るんるん るんぶ
 るんぶ るん
 つんつん つるんぶ
 つるんぶ つるん

立った。立った。水のうへ。
 河童がいきなりぶるつとたち。
 天のあたりをねめまわし。
 それから。そのまま。

るんるん るんぶ
 るんぶ るん
 つんつん つるんぶ
 つるんぶ つるん

もうその唄もきこえない。
 沼の底から泡がいくつかあがつてきた。
 兎と杵の休火山などもはつきり映し。
 月だけひとり。
 動かない。

ぐぶうと一と聲。
 蛙がないた。

■音読を楽しみながら、浮かんでくるイメージを書き込ませ、それを集約したもの

1 るんるん るんぶ
 2 るんぶ るん
 3 つんつん つるんぶ
 4 つるんぶ つるん

・水の中からかっぱがおたいながらゆつくり出てきた。
 ・はじめはさわいでいない。・2ひきのかっぱがうたいながらおどつてる
 ・かっぱがだんだんふえてくる。
 ・はじめは、3，4人でおどっていたら、楽しそうだったから、5人
 6人7人とふえていったと思う。
 ・楽しそうに歌っている。・おどっているようだ。
 ・声がだんだん大きくなっている

8 7 6 5

河童の皿を月すべり。
じやぶじやぶ水をじやぶつかせ
かほだけ出して。
おどつてる。

・ 2〜3人からだんだんふえていく。
・ 水の中でおどっている。・ 楽しそう。・ はしゃいでいる。
・ ならめっこしたりしながら手で水をじやぶつかして水のかけ
あいをしている。・ おほれているみたいにならな
る。あばれている。とてもはでにおどっている。
・ おどっているかっぱの皿の上に月がすべっている。
・ かっぱの頭の上を月がうつたりきえたりしている。
・ かっぱが池の中から顔だけだしておどっている。

9

るんるん るんぶ
るんぶ るん
つんつん つんぶ
つるんぶ つるん

・ ゲームをしているようにおにごっこをしている。はしゃいでいる。
・ みんなで楽しそう。・ もりあがってきた。・ はしゃぎまわっている。
・ もつとふえていく。いっばいになっていく。・ 10ぴきぐらいで。
・ だんだんときつくうたったりおどったりしている。
・ 何びきかのはりきっておどっている。
・ 子どものかっぱが5人くらいで手をつないでおどっている。
・ ふらふらしながらおどっている。すごく楽しそう。

9

大河童沼のぐるりの山は。
ぐるりの山は息をのみ。
あしだの手だのふりまわし。
月もじやぼじやぼ沸いてる

・ ぐるりの山がびっくりしている。かっぱの勢いにびっくり
している。・ はあ、と思いつつみている。
・ ぐるりの山がびっくりするほどにぎやかだった。
・ ぜんぶふりまわしながら。なみでわいている感じ
・ 水にうつった月が波にゆれている。
・ 大事なこと、しないといけないことなどをわすれておどっている。
・ 楽しそうに足だの手だの、とぶようにふりまわしている。
・ 足や手をおもいつきりふりまわしている。

9

るんるん るんぶ
るんぶ るん
つんつん つんぶ
つるんぶ つるん

・ だんだん声が大きくなっていく。(ガヤガヤ)
・ とても人数が多くなっている。・ ぴきぐらいきて大きわぎしている
・ いちばんもりあがっている。・ いちばんあばれている。
・ 思い切つて楽しそうに。・ 楽しそうにわらっている。
・ みんなワイワイととてもたのしそうに歌いながらおどっている。
・ みんないっしょうけんめいおどっている。

9

立った。立った。水のうへ。
河童がいきなりぶるつとたち。
天のあたりをねめまわし。
それから。そのまま。

・ 月がじゃまだからいばっているように立ってにらみつけて
いる。
・ あまり楽しそうじゃない。
・ 空をいやな目で見ている。・ 天気を気にしてにらんでいる
・ 朝になってきたから天をにらんでいる。
・ かっぱが、天をくらくなったので、もつと明るくなれ！と
起こつて、空を見つめている。

9

るんるん るんぶ
るんぶ るん
つんつん つんぶ
つるんぶ つるん

・ おどりつかれ、へとへと、ふらふら。
・ ちよつとつかれたみたい。・ つかれて声が小さくなっていく。
・ さいごだから、みんなでのしそうにきえていくように。
・ 人数が少なくなってきた。
・ だんだん少しづつへっていく。かっぱも少しつかれてきた。
・ ちよつとつかれてしづかになっていく。
・ もうつかれて水の中へ帰っていく。しづんでいく。
・ つかれてきてだんだんしづかになっていく。さいごは一人。

もうその唄もきこえない。
沼の底から泡がいくつかあがつてきた
兎と杵の休火山などもはつきり映し。
月だけひとり。
動かない。

・ かつぱがつかれて水の中へ入って行ってしーんとして
いる。月だけ一人さみしそう。
・ ただ水の上につきがうつつてしずかなかんじ。
・ 月はあきれて動かない。
・ しーんとしている。 ・ だんだん時間がすぎていく。
・ もう全員しずんだ。

・ 最初はかつぱがおどっていたから水がゆれていたからふつうのまるい月しかうつていなくて、うさぎやきねの休火山などうつていなかったけど水がゆれなくなったからうさぎやきねの休火山もはつきりうつった。

・ ぐぶうと一と聲。
蛙がないた。



・ しーんとなった中で、いきなりなかった。
・ さいごに一こえかえるがないた。かえるが「やっと終わった」と言っている。

・ ひくーい声で「あーあ、やっとおわった。」という感じ。
・ 声がかえってくるみたい。
・ 自分もやりたかった。
・ とても楽しかったから、もっとやってほしいと思ってぐぶうとないた。
・ かつぱがおどっていて、うるさいから、かえるは、ねられなくて、ぐぶうといった。
・ うるさかったから、かえるがさいごにもんくをいうようにないた。

■群読のシナリオを子どもたちと一緒に考え、次のような形にした。

河童と蛙 草野 心平

1 るんるん るんるん
2 るんるん るんるん
3 つんつん つんるん
4 つるんぶ つるん

1 まず一人で（大裕・美由紀）
2 4人ぐらいで（1班・4班）
3 8人ぐらいで（2・3班、5・6班）

5 河童の皿を月すべり。 — 一人（智昭）
6 じゃぶじゃぶ水をじゃぶつかせ。 — 一人（直也）
7 かほだけ出して。 — 一人（智将）
8 おどつてる。 — 一人（洋志）

全員で続ける。
（ただし、朗読の子の声を
つぶさないでいどの大きさで）

9 るんるん るんるん
るんるん るんるん
つんつん つるんぶ
つるんぶ つるん

○全員で
交互に。（男・女で交互に）

・ 大河童沼のぐるりの山は。 — 一人（公美）
・ ぐるりの山は息をのみ。 — 全員
・ あしだの手だのふりまわし。 — 一人（宏）
・ 月もじゃぼじゃぼ沸いてゐる。 — 全員

・ るんるん るんるん
・ るんるん るんるん
・ つんつん つるんぶ
・ つるんぶ つるん

○輪唱のように「るんるん」をずらして群読する。
大騒ぎのイメージ

立った。立った。水のうへ。——一人(邦臣)
河童がいきなりぶるつとたち。——一人(龍法)
天のあたりをねめまわし。——一人(政義)
それから。そのまま。——一人()

るんるん 1 全員で 3 8人ぐらい(45班)
るんぶ 2 ← 4 4人ぐらい(6班)
るん 2 ← 5 一人(宣彦)
つんつん 2 ← 6 一人(公美)
つるんぶ 2 ← (123班)

もうその唄もきこえない。——一人(朝子)
沼の底から泡がいくつかあがってきた。——一人(なつ希)
兎と杵の休火山などもはつきり映し。——一人(由美子)
月だけひとり。——一人(優子)
動かない。——一人(有香)

ぐぶうと一と聲。——一人(智将)
蛙がないた。——一人(祐子)